

公表

児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぱんはうすさくらさいたまと野教室			
○保護者評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年10月31日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数)	30
○従業者評価実施期間	2025年10月1日 ～ 2025年10月31日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月5日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	高い満足度を支える専門性の高い支援体制 保護者評価において、Q29「事業所の支援に満足していますか」で全30件が「はい」と回答され、満足度100%を達成しています。これは、お子様一人ひとりの特性に応じた専門性のある支援を提供し、「同じ課題でも一人ひとりアプローチ方法が違う」という個別化された療育を実践している成果です。また、Q5「専門性のある支援」でも全30件が「はい」と回答しており、職員がお子様の特性を十分に理解し、適切な支援を提供できていることが評価されています。今後もこの高い水準を維持・向上させることが継続して参ります。	専門性を支えるチーム体制と日々の振り返り実践 高い満足度と専門性のある支援を実現するため、支援開始前の事前ミーティングと支援終了後の事後ミーティングを毎日実施しています。事前ミーティングでは、その日の支援内容や役割分担を確認し、お子様一人ひとりの個別支援計画の内容を踏まえた対応方法と共有しています。事後ミーティングでは、その日の支援の振り返りを行い、お子様の反応や気づいた点を職員間で共有することで、次の支援の質向上につなげています。また、定期的な振り返りミーティングを通じてPDCAサイクルを回し、業務改善を継続的に行っています。法定基準以上の職員配置により、チーム全体でお子様一人ひとりに丁寧に向き合える体制を整えています。。	専門性の高い支援を全職員が提供できる体制の構築 現在も満足度100%という高い評価をいただいている専門性のある支援を、全職員が安定的に提供できるよう、職員の継続的なスキルアップに注力します。ジョブメドレー研修や行政の研修に加え、教室内での実践的な研修を定期的に開催し、具体的な支援技術や対応方法を職員間で共有します。また、個別支援計画の内容を職員全員がより深く理解できるよう、カンファレンスの充実を図ります。経験豊富な職員によるOJT体制を強化し、若手職員の育成にも注力します。保護者様からいただいた「スタッフによって不安な時がある」とのご意見を真摯に受け止め、どの職員が担当しても同じ水準で質の高い支援を提供できる体制を目指します。「一人一人子供にあった支援をしていくことが重要です」との評価をさらに確実なものとしていきます。
2	個別支援計画の充実と保護者との協働 Q7「個別支援計画の作成」において全30件が「はい」と回答され、保護者様から「的確に分析して子供と保護者の気持ちも汲んでくれた児童発達支援計画書は感動しています」との評価をいただいています。アセスメントと面談を丁寧に実施し、カンファレンスで職員全体の意見を反映させることで、お子様と保護者様双方のニーズに応える計画書を作成しています。また、Q13「支援内容の説明」でも29件が「はい」と回答し、計画内容を丁寧に説明する姿勢が評価されています。今後もこの協働的なアプローチをさらに充実させていくことを努めてまいります。	個別支援計画作成における多職種連携と保護者との協働プロセス 「的確に分析して子供と保護者の気持ちも汲んでくれた児童発達支援計画書は感動しています」との評価をいただいている個別支援計画の作成には、丁寧なプロセスを踏んでいます。まず、インテーク時からお子様の状況を詳細に確認し、アセスメントを実施します。その後、保護者様との面談では「面談で細かく聞いていただけるので、適切に状況は反映されていると感じます」とのお声の通り、お子様の様子だけでなく、保護者様のお気持ちやご家庭での困りごとまで丁寧にお聞きしています。さらに、児童発達支援管理責任者だけでなく、カンファレンスを通じて職員全体でお子様について話し合い、多角的な視点から計画を検討しています。作成後は、計画書を示しながら支援内容を詳しく説明し、保護者様の同意を得ています。	個別支援計画に基づく支援の実践力強化と記録の充実 個別支援計画を作成するだけでなく、その計画に沿った支援が確実に提供されるよう、職員の実践力を強化します。毎日の個別支援記録を充実に、計画の目標に対する達成状況を可視化することで、支援の検証と改善につなげます。事前ミーティングでは個別支援計画の内容を確認し、その日の支援で特に意識すべきポイントを共有します。事後ミーティングでは、計画に基づいた支援がどのように実践できたか、お子様の反応はどうだったかを振り返り、次の支援に活かします。このPDCAサイクルを回すことで、「子どもにあった支援計画で更新の度に違いがみられてよい」との評価をさらに確実なものとし、お子様の着実な成長を支援していきます。
3	日々の密なコミュニケーションによる信頼関係の構築 Q15「保護者との共通理解」で29件が「はい」と回答され、「利用したらすぐにアプリで当日の様子を丁寧に伝えてくれるのでとても分かりやすく安心感がある」との評価をいただいています。連絡帳やアプリを活用した日々の情報共有、事後ミーティングでの振り返りを通じて、お子様の成長や課題について保護者様と共通理解を深めています。また、「安心感」と「楽しさ」で、それぞれ30件、29件が「はい」と回答し、「先生たちと会えることをとても楽しみにして通っています」との声をいただいております。信頼関係が確立されています。	迅速な情報発信と透明性のある運営 Q21「情報発信」で29件が「はい」と回答し、「定期的にブログが更新されています」との評価をいただいています。HUGやホームページを活用し、活動概要や行事予定を定期的に発信しています。Q22「個人情報の取扱い」でも28件が「はい」と回答し、「ブログは顔を隠すなど配慮されている」と評価されており、プライバシーに配慮した情報発信を行っています。また、Q26「事故発生時の連絡」で28件が「はい」と回答し、「ケガをした際、直後丁寧に電話をいただきました」との声の通り、迅速かつ丁寧な対応を心がけています。	情報発信の充実と保護者との双方コミュニケーション 現在も定期的にブログを更新し、HUGやホームページで情報発信を行っています。さらに内容を充実に、保護者様にとって有益な情報を積極的に提供していきます。お子様の成長の様子や、プログラムの意図・効果について、より詳しくわかりやすく伝えることで、保護者様の理解と安心感を深めます。また、アプリを活用した日々の報告をさらに丁寧に、保護者様からのフィードバックも積極的に受け止めることで、双方のコミュニケーションを強化していきます。透明性の高い運営を継続し、信頼関係をさらに深めていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	職員による支援の質のばらつきと不安感の解消 保護者評価のQ9(計画に沿った支援)において「スタッフによって不安な時がある」という回答がそれぞれ3件ありました。毎年9月と3月に避難訓練を実施し、安全計画によって支援の質や対応にばらつきがあることが課題として認識されています。お子様と保護者様が常に安心して利用できるよう、全職員が一定水準以上の専門性を持って支援を提供できる体制を整える必要があります。	職員による支援の質のばらつき要因 職員のスキルや経験値に差があることに加え、個別支援計画の内容が全職員に十分に共有されていない場面があることが要因と考えられます。事前・事後ミーティングは実施していますが、支援の標準化や具体的な対応方法の統一が不十分な状況です。また、現在実施している研修が視聴型中心であり、実践的なスキルアップの機会が限られていることも、職員間のばらつきを生む要因となっています。日々の業務の中でのOJTや教室内研修をより充実させる必要があります。	全職員の専門性向上と支援の標準化の徹底 職員による支援の質のばらつきを解消するため、実践的な教室内研修を定期的に開催し、具体的な支援方法やお子様への対応スキルを全職員で共有します。個別支援計画書の内容を事前ミーティングで詳しく確認し、支援のポイントや注意事項を全職員が理解した上で支援を提供します。また、経験豊富な職員によるOJT体制を強化し、新人職員や経験の浅い職員が早期に専門性を身に付けられる環境を整えます。支援の標準化を図るためのマニュアルを整備し、保護者様に安心していただける一貫した支援を実現します。
2	非常災害訓練の実施状況の周知不足 保護者評価のQ23(各種マニュアルと訓練)とQ24(避難訓練)において、「わからない」という回答がそれぞれ3件ありました。毎年9月と3月に避難訓練を実施し、安全計画も策定していますが、保護者様への周知が十分でない状況です。事業所として実施している安全対策や訓練内容を、より積極的に情報発信し、保護者様に安心していただける体制を構築する必要があります。	非常災害訓練の周知不足の要因 避難訓練は年2回定期的に実施し、ブログでもお知らせしていますが、訓練実施時に利用されていない保護者様に情報が届きにくい状況です。また、ブログでの事後報告が中心となっており、事前の周知や訓練内容の詳細な説明が不足しています。マニュアルや安全計画についても、契約時の説明のみで、その後の定期的な情報提供が十分でないことが、「わからない」という回答につながっていると考えられます。訓練の可視化や情報発信の工夫が必要です。	非常災害訓練の可視化と保護者への積極的な周知 避難訓練の実施については、事前に日程と内容を保護者様全員に文書とアプリで周知し、訓練当日の様子は写真や動画で記録してブログやアプリで詳しく報告します。訓練に参加したお子様の様子や、避難経路、避難場所についても個別に説明します。また、年に一度は保護者会や面談の機会を活用して、安全計画や各種マニュアル(事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応)の内容を説明し、保護者様が教室の安全対策を十分に理解できるようにします。
3	環境整備の一貫性とクリンネス意識の向上 保護者評価のQ4(清潔な環境)において「部屋が汚い時がある」というご意見をいただきました。清掃員を雇用し、職員も日々の清掃や消毒を行っていますが、見える場所や棚の上などの見栄えが悪い時があることを自己評価でも認識しています。常に清潔で心地よい環境を維持するため、クリンネス意識をさらに高め、環境整備の基準を明確にする必要があります。	環境整備の一貫性が保たれない要因 清掃員による定期清掃と職員による日々の清掃を実施していますが、活動プログラムが多様で変化に富んでいるため、使用する教材や道具が増え、整理整頓が追いつかない場面があります。また、職員によってクリンネスに対する意識や基準に差があり、「いつでもどこでも清潔」という状態を保つための明確なルールやチェック体制が不十分です。活動の合間や終了後の片付け・清掃のタイミングや担当を明確にし、全職員が同じ基準で環境整備を行う仕組みが必要です。	クリンネス基準の明確化と環境整備の定期チェック体制の構築 常に清潔で心地よい環境を維持するため、清掃・整理整頓の基準を明文化し、全職員で共有します。活動プログラムごとに使用する教材や道具の positioning を決め、使用後は必ず元の場所に戻すルールを徹底します。毎日の清掃チェックリストを作成し、担当者が責任を持って確認する体制を整えます。見える場所や棚の上など、普段目につきにくい箇所についても定期的にチェックし、常にクリンネスを意識した運営を行います。管理者による週次の環境チェックを実施し、改善点があれば即座に対応します。

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	こぼんはうすさくらさいたまと野教室			
○保護者評価実施期間	2025年10月1日		～	2025年10月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	30	(回答者数)	30
○従業者評価実施期間	2025年10月1日		～	2025年10月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数)	7
○事業者向け自己評価表作成日	2025年11月5日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	高い満足度を支える専門性の高い支援体制 保護者評価では、「こどもの特性等に応じた専門性のある支援」「個別支援計画の作成と実施」において全30件中30件が「はい」という最高評価をいただいています。「よくできたことや振り返ることを共有してもらえることがとてもいい」「学校、家庭、こぼん、それぞれではなく、子どもを軸にすべてがリンクするように考えてくださりありがたい」というご意見からも、一人ひとりの特性を十分に理解した上で、関係機関と連携しながら専門的な支援を提供できていることが評価されています。	専門性を支えるチーム体制と日々の振り返り実践 毎日の療育前後に児童に関するミーティングを実施し、支援開始前には必ず職員間で打合せを行い、その日の支援内容や役割分担を確認しています。支援終了後にも必ず振り返りを行い、気づいた点を共有することで、チーム全体で支援の質を高めています。また、複数媒体で記録を取り、支援の検証・改善を継続的に行うことで、一人ひとりの特性に応じた専門的な支援を実現しています。会社独自の配置基準(児童3:職員1)により手厚い支援体制を整え、職員の休み等のやむを得ない場合には声を掛け合ってフォローできる体制を構築しています。	全職員の専門性向上と支援の標準化の徹底 現在実施している毎日のミーティングや振り返りに加えて、定期的な事例検討会や外部専門家によるスーパーバイズの機会を増やし、職員間のスキル差をさらに縮小していきます。支援マニュアルの整備と更新を進め、どの職員が対応しても一定水準以上の専門的支援が提供できる体制を強化します。また、職員の資質向上のための研修受講機会をさらに充実させ、最新の療育知識や技術を習得し、保護者の皆様により安心してご利用いただける支援体制を目指します。
2	日々の丁寧な情報共有による保護者との強固な信頼関係 「日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができている」「定期的な面談や子育てに関する助言等の支援」において、それぞれ30件中30件、29件が「はい」と回答いただいています。「子供が毎日楽しく学校に通っているのは、こぼんで、自分の気持ちの表現の仕方など様々なことを学んでいるから」というご意見からも、日常的な情報共有と専門的な助言により、保護者との信頼関係を構築し、お子様の成長を共に支えている体制が評価されています。	保護者との協働を実現する多角的なコミュニケーション体制 アプリを通じて常時相談を承れることを発信し、保護者からの相談や申し入れに迅速に対応できる体制を整えています。定期的なモニタリングの実施や、個別支援計画作成時には必ず保護者の意向を確認する機会を設け、お子様と保護者のニーズを客観的に分析しています。継続的にブログを更新して活動を共有するとともに、学校や相談支援事業所への訪問も行い、お子様を軸にすべての支援機関がリンクする体制を構築しています。保護者会や家族参加イベントも定期的に開催し、保護者同士の交流機会も提供しています。	多職種連携の深化と包括的支援ネットワークの構築 内容: 学校、医療、福祉等の関係機関との連携をさらに強化し、定期的な情報交換会の実施や、必要に応じた合同ケース会議の開催を増やしていきます。地域の児童発達支援センターとの連携も深め、専門的な助言や研修を受ける機会を確保します。また、就学前施設や移行先の事業所との情報共有もより丁寧に行い、お客様のライフステージ全体を見据えた切れ目のない支援体制の構築を目指します。卒業後の継続的な支援についても、OB・OG向けのイベント開催など新たな取り組みを検討していきます。
3	清潔で安心できる療育環境と充実した設備 「生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている」という項目で、30件全てが「はい」という最高評価をいただいています。また、「生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっている」についても28件が「はい」と回答されており、法令以上の広さを確保し、個別部屋も完備していることで、お子様の状態に応じた柔軟な環境設定が可能となっています。清掃員を雇用するなど清潔な環境維持に努め、お子様が安心して過ごせる空間づくりが評価されています。	構造化された環境設定と個別ニーズに応じた空間活用 TAECCHを活用した視覚的にわかりやすい環境づくりを行い、お子様が見通しを持って活動できるよう工夫しています。法令以上の広さを確保したメイン部屋に加え、個別部屋を設置し、お子様の状態や活動内容に応じて柔軟に空間を使い分けています。環境設定は児童に合わせて調整し、集団活動と個別活動を適宜組み合わせながら支援を実施しています。また、清掃員を雇用し清潔な環境を維持することで、お子様が心地よく過ごせる空間づくりに日々取り組んでいます。	デジタルツールを活用した情報共有の充実と保護者支援の強化 現在活用しているアプリやブログに加えて、お子様の日々の様子や成長の記録をより詳細に共有できるシステムを検討していきます。ペアレントトレーニングや家族支援プログラムの実施回数を増やし、保護者の皆様がご家庭でも活用できる具体的な支援方法の情報提供を充実させます。また、オンライン相談の導入も検討し、保護者の皆様により気軽に相談できる環境を整え、お子様の成長を共に支える体制をさらに強化していきます。参加型イベントの頻度も増やし、保護者同士の交流機会をより豊かにしていきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流機会の不足と活動プログラムの固定化懸念 「放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会」について、「はい」が6件に対し「いいえ」が7件、「わからない」が14件となっており、地域交流の機会が十分に提供できていない状況です。また、「活動プログラムが固定化されないよう工夫されている」という項目では、「年間を通して考えるルーティーン化しているように感じる」「プログラミングを復活させてほしい」というご意見をいただいており、毎日異なるプログラムを提供しているものの、長期的視点では活動に変化が感じられにくい状況があります。	地域交流機会の不足と活動プログラムの固定化懸念の要因 地域の児童クラブや児童館との組織的な連携体制が構築できておらず、地域交流の機会を意図的に設定する取り組みが不足しています。また、日々のプログラムは多様性を意識していますが、季節ごとの活動パターンが年間を通して繰り返される傾向があり、長期利用されている保護者からは固定化を感じられる状況となっていました。さらに、Windows11への移行に伴うPC不具合により、以前実施していたプログラミング活動が中断しており、選択肢の幅が狭まっていることも要因の一つとなっています。	地域連携の推進と多様な活動プログラムの開発 イベントを通じて、地域との交流を促進してまいります。農業体験や収穫体験など、地域へ入る体験活動を行い、地域との交流を促進してまいります。また、学校との連携などは、ご希望のある方に限り可能な限り行っていきます。協議会への参加を継続し、そこで得られた情報やネットワークを活用して、地域との具体的な交流実践につなげていきます。また、活動プログラムについては、季節行事だけでなく新しいテーマや活動を定期的に導入し、保護者からのご要望も取り入れながら、長期的視点での活動計画を作成し、多様性と継続性のバランスを保った魅力的なプログラムを提供していきます。
2	非常災害対策や安全管理に関する保護者への周知不足 「事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されているか」という項目で、30件中7件が「わからない」と回答されています。また、「非常災害の発生に備えた定期的な訓練」についても5件が「わからない」と回答されており、避難訓練等の実施は行っているものの、その内容や結果について保護者への情報提供が十分でないことが課題となっています。事業所内では定期的に避難訓練を実施し安全管理に取り組んでいますが、保護者への周知方法に改善の余地があります。	非常災害対策や安全管理に関する保護者への周知不足の要因 避難訓練等は定期的に実施しているが、訓練実施の事前案内や実施後の詳細な報告が十分でなく、また、各種マニュアルの内容や安全計画について保護者に説明する機会が限られていました。ブログやアプリを活用した情報発信は行っていますが、非常災害対策に特化した情報提供の優先度が低く、保護者が「わからない」と感じる状況を生み出していました。安全管理の取り組みを可視化し、保護者に安心していただくための情報発信の工夫が不足していました。	非常災害訓練の可視化と保護者への積極的な周知 避難訓練の実施前に、実施日時や訓練内容を保護者に事前案内し、実施後には訓練の様子を写真付きでブログやアプリで詳細に報告します。年度初めには、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、BCPなどの概要をわかりやすく説明する資料を作成し、保護者会などで報告することを検討しています。保護者の皆様に安心していただける情報提供体制を構築します。訓練実施記録も定期的に共有し、安全管理への取り組みを可視化していきます。
3	職員による支援の質のばらつきと配置体制への懸念 「事業所の職員から共感的に支援をされている」という項目で、「職員によってばらつきがあるように思える」というご意見をいただいています。また、「職員の配置数は適切である」という項目では、「足りないように感じる時もある」「子供の人数が多いので職員の方々の負担が気になります」というご意見があり、事業所自己評価でも「子どもの特性によって人が足りない時がある」という課題を認識しています。会社独自の配置基準を法令以上職員配置をしており、手厚い体制を整えているものの、お子様の特性や状態によっては、より個別的な対応が求められる場面があります。	職員による支援の質のばらつきと配置体制への懸念の要因 職員には同じ研修を受講していただいているが、経験年数や得意分野の違いにより、支援スキルに差が生じています。毎日のミーティングや振り返りを実施しているものの、個々の職員の専門性を均一化するための体系的な研修プログラムや、支援の標準化を図るマニュアルの整備が十分ではありませんでした。また、お子様の特性が多様化する中で、特に配慮を要する場面や複数のお子様と同時に個別対応を必要とする場合に、職員配置に余裕がなくなる状況が時折、生じています。	職員の専門性向上と柔軟な配置体制の確立 全職員を対象とした体系的な研修プログラムを整備し、経験年数に応じた段階的なスキルアップの仕組みを構築します。支援の標準化を図るマニュアルを作成し、どの職員が対応しても一定水準以上の質の高い支援が提供できる体制を整えます。定期的な事例検討会やスーパーバイズの機会を設け、職員間で支援方法を共有し学び合う文化を醸成します。また、お子様の特性や人数に応じて柔軟に対応できるよう、職員配置の見直しを行い、必要に応じて職員の増員も検討していきます。保護者の皆様に安心してご利用いただけるよう、職員の質と量の両面から支援体制を強化していきます。